

7 6 5 4 3 2 1

70 9 8 7 6 5 4 3 2 1

6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

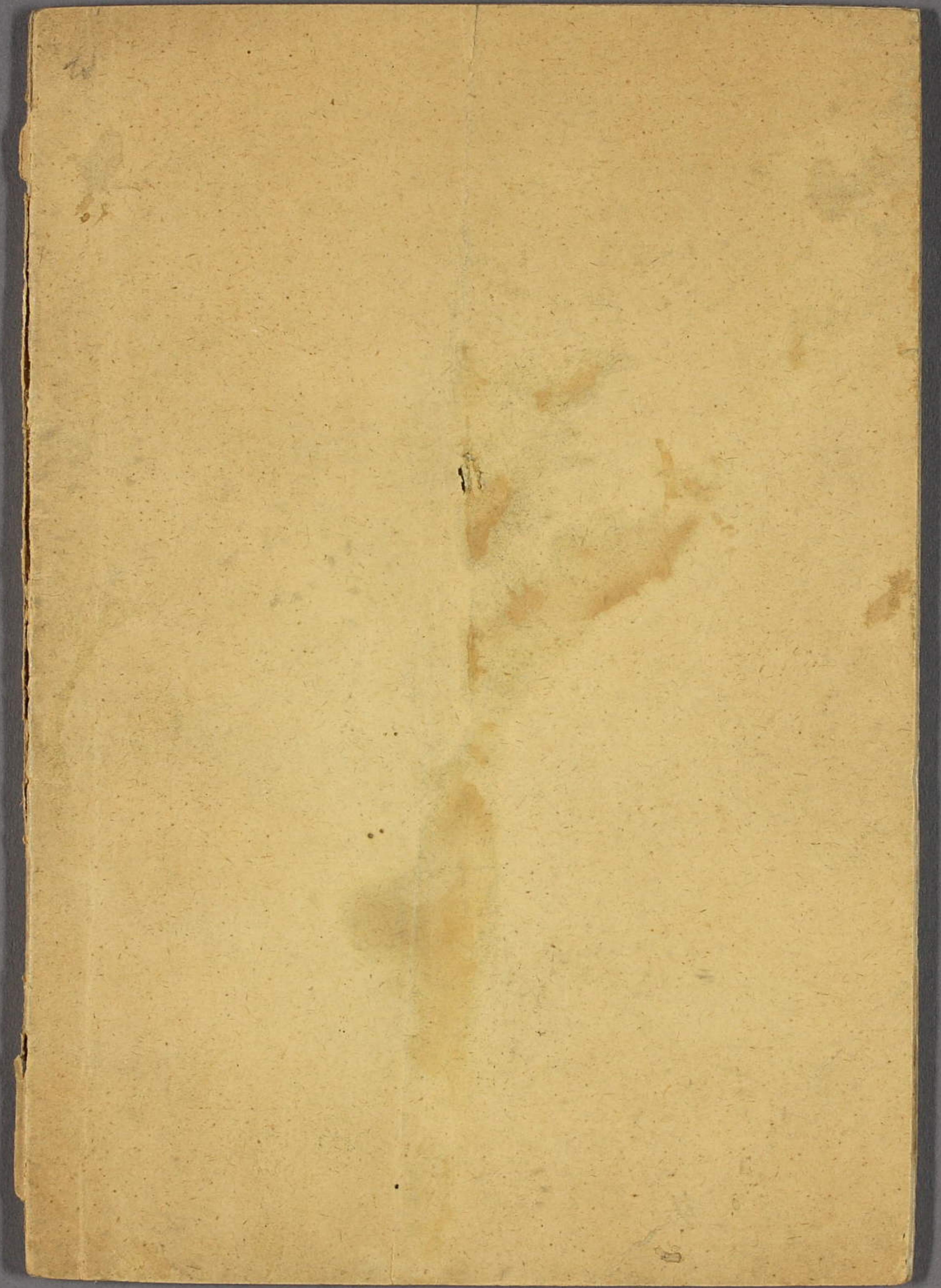
60 9 8

8 9 10

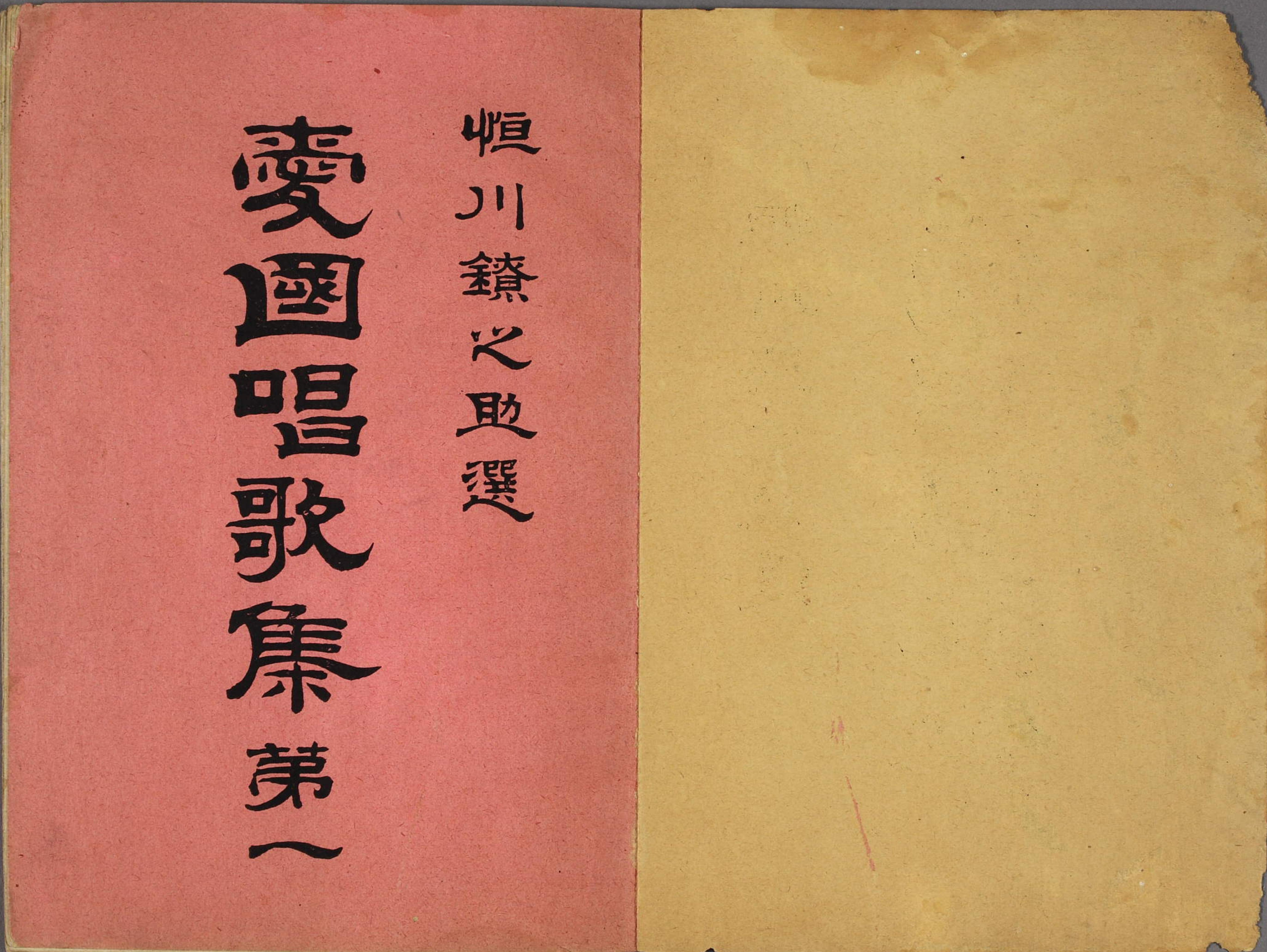
藝國唱歌集

舊川鑑文選





恒川鑄之助選  
麥國唱歌集第一



(一)

凡例

此書ハ大祭祝日の唱歌を編輯せしもの  
にて専ら忠君愛國の志氣を發揚する  
を主とす

一歌曲共々作者の名をあくさくるより  
を悉く編者の新作なり

明治廿年十月

編者識

(二)

愛國唱歌 第一

目録

勅語の歌

四方棹

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

皇后宮御降誕

開校紀念式

夜ふくろ窓

(三)

(四)

勅語の歌

倉田續作歌

よしとへの畢業を一とあくと  
わがれてて合ふづかぬめあり  
千とせよづ代もづる乃  
まわしやすのり國の里  
ますくけ男もたきや女も  
学ぶ心もひとつあり  
事のあるち時不遇ひ  
つゝせやつゝせ君のため  
すゑらうまかとのうつゆ  
宣うたまふをいづじま  
寔るる明るよ活るる  
うたへやうたへ出世の道

(五)

# 勅語の歌

勅語の歌

1. をしへのわざはしあじなとモリ  
2. マスースラタケラミのタカシヨメく  
3. すめらみヒトのタカシコく

あまのうれてあふうがうかめなナリリテ  
アマの一うづココロハヒトウツナギ  
ちコゲトイセヨロブヨマトコニマロアヌ  
チコゲトニシマルナシトキニマロアヌ

まつゝタれやまつゝもクタれセヘノノタミ  
マツクタセヤマツクタセヘノノタミ

(七)

## 四方挿

四方挿

いはとよのくわく  
よのくわく  
よのくわく  
よのくわく

いはとよのくわく  
よのくわく  
よのくわく  
よのくわく

いはとよのくわく  
よのくわく  
よのくわく  
よのくわく

いはとよのくわく  
よのくわく  
よのくわく  
よのくわく

(六)

## 四方挿

ひと夜のくわく  
あるとくわく  
みつのくわく  
四方挿とくわく

いせのくわく  
代のくわく  
といわくわく  
をくわく

うるかくわく  
ゆめよくわく  
大君のたゑく  
あくまきよく

(九)

## 元始祭

元始祭

1. よろづのくににたぐひーなきー  
2. カシコドコロヤヒサカータノー

あまつひつぎのはじめーきばー<sup>アマツミカミヤクニツーカミー</sup>

いははせたまふけふなーればー<sup>スメラミコトノミヨミーヨノー</sup>

げんーまいとはまをすーなリー<sup>ミタマラマツラヒタマフーナリー</sup>

(八)

## 元始祭

萬の國よたぐひあき  
わまくひづきのもとでさきば  
いたせたまけすあり  
元始祭としまをすぢり

かくこどもやえうとの  
わまつみのやいにづく  
すきらんとれみの  
こたまをまくらせたまをすぢり

(十一)

# 孝明天皇祭

孝明天皇紀

(十)

孝明天皇祭

年のうちよ、つかとひと  
じよおやうれしけども  
しませむやうのわくもく  
やきのすくらのまぐらよ  
かれたまへるその日す

大宮ぬちよみづくら  
まうらやたまひづくらひを  
のちのつかのひむうの  
みさきよたてみてくらを  
さげたまくらまつりあ

か」とさへのまゝつゝよ  
わが日の幸のまゝらを  
ちくちく、わらぢもねだらうの  
うけつゝ身びと、おみひど  
もうかよを、うたてまつれ

(三)

つきたまふ そりひを いまも  
たふとみて きげんせつとは  
まさすなり いはへや いはへ  
みよの さう一そ 一を

(四)

## 紀元節

かくわくやしまれきの  
おやかに日向の國を  
しるたまひとくわく  
あらへにまつたまふ

(五)

## 紀元節

紀元節

かしきや いばれ ひこの  
おほきみは ひうぎのくにを  
いでたまひとよあしはらの  
もうつぐにをさめたまふと  
やまとあるかしはらにしも  
みやつくりみうどのくらゐに

(六)

やまとあるかしはらに  
みやつくりみうどのくらゐに  
つまたまふその日をしまむ  
たふとく紀元節と  
まさすすり祝へやいまく  
みどりのさうえを

(七)

## 春季皇靈祭

春季皇靈祭

ももしきの みそのの やなぎうちるびき  
いとも のどけく よろひる も れぬじ  
ながきのはるのひの けふを よきひとみよみよ  
の すめらみことの おほみたま そのしき  
おんのみまつりに あづうりたまはぬ みたまを  
ば まつらせたまふ はるのみまつり

(六)

## 春季皇靈祭

小田清雄作歌

かーきの弓園の柳  
うちあひきのどものどけ  
よろひるわたすく あざれ  
春の日の今日をよきひと  
みくのすめらみことの  
たやまくまその式年の  
こまつりようづくたまをぬ  
皇靈をまつらせたまよ  
まのみまつり

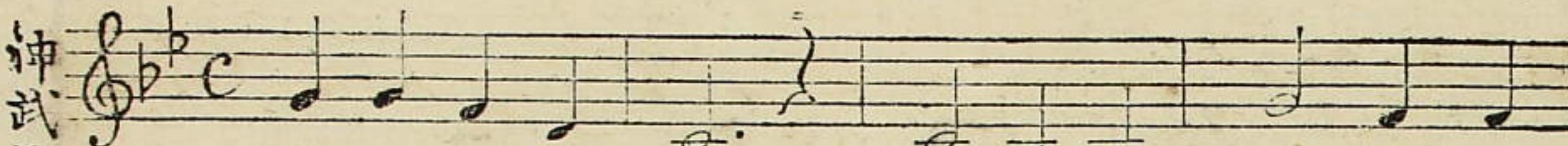
(元) 神武天皇祭

かんやまとひされひこを  
すめうぎのかんさくま  
けふされぞ吾大君ハ  
みもづきうまつらせゑまひ

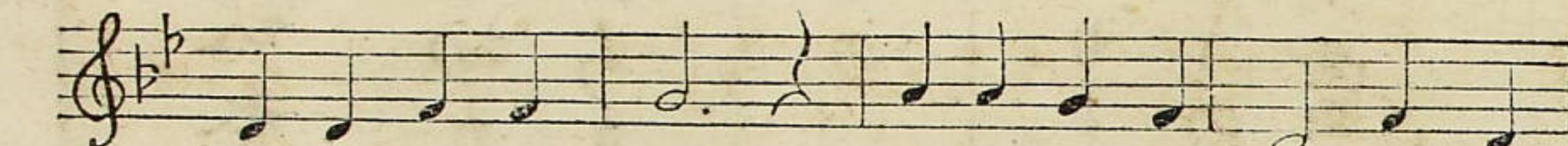
えとおアミテジラツヒ  
まゐらせてまつらせたまへど  
みぬくらむはきのよをうく  
とほつたやのうけまつて  
みゑぐれちぢうひとづせ  
むしひよりく

(四)

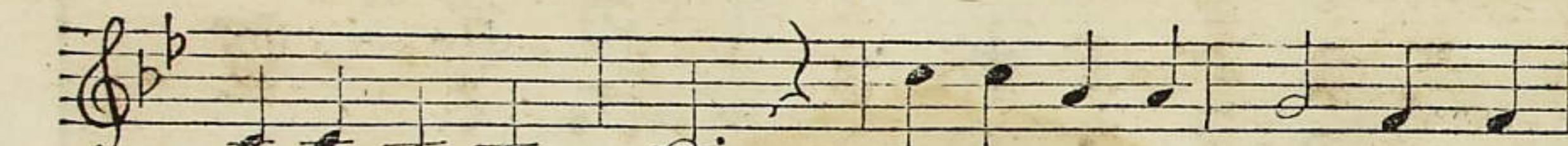
## 神武天皇祭

神  
武  
天  
皇  
祭

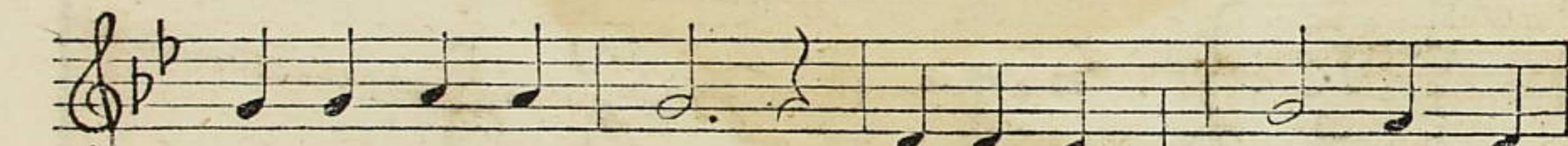
かんやまと いはれ ひとの



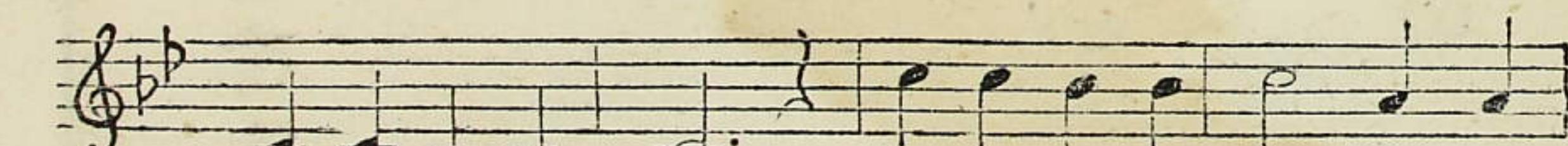
すめうきの かんさりましし



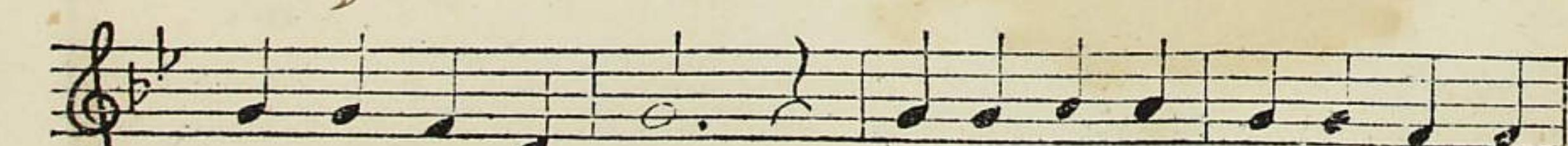
けふなれば わうおほ きみは



みみづうち まつらせ たまひ



みまきに みてぐちつあひ

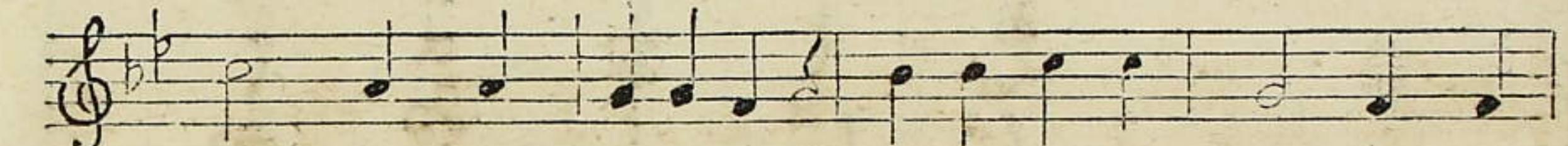


まわらせて まつらせ たまへば

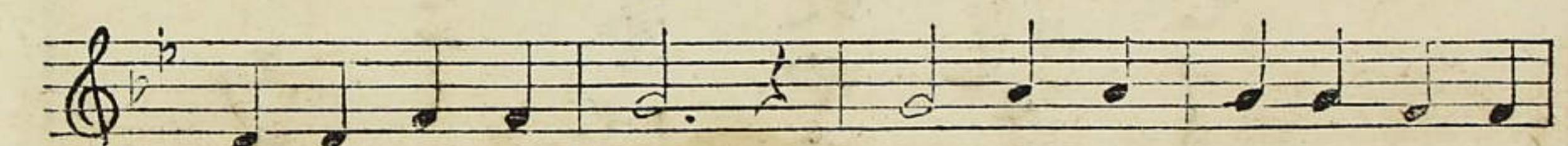
(五)



みたみら も はるかに さうみて



とほつ おやの うけまつりにし



みめぐみの ちうぢ ひとつを



むくいよ カー ろ も - ろ

(四)

## 秋季皇靈祭

秋季皇靈祭

きみをおもふ　おみとたみとのむらきもの  
ところのいうをひととはば　あらじと  
こたへんそのいうに　くさきもみづるつゆしも  
の　あきのなればのけふはしも　わがおは  
きみうみよみよの　すめらみととのみたまを  
ば　まづらせたまふめでたきよ一きひ

(五)

## 秋季皇靈祭

小田清雄作歌

君をおもふ臣とたとの  
むらきものちうろの色を  
人とも赤一とくへん  
そのいうよ草木もみづる  
つゆ一りの秋のあとのだれ  
今日も一とわづかやきか  
子ゆくのすゑらみととの  
皇靈をもまつらせたまふ  
きでたまくまきひ

(五)

## 神嘗祭

神嘗祭

いせのうちとみやうり  
ことへい称を大君の  
たてまつりますみまつりを  
神嘗祭とまをきやうり

(五)

## 神嘗祭

いせのうちとみやうり  
ことへい称を大君の  
たてまつりますみまつりを  
神嘗祭とまをきやうり

神嘗祭けふあらー  
内外のみやよまうづれバ  
あやまくぐらき御使の  
さげますとまをきやうり

三輪經年作歌

## 天長節

かゝるより四方よ運く

日の本ハあり國よ

たぐひりき神のみくにと

うもひまわきづけあまい

神寶三種のたうら

うけまくもりやよかく

うけまもーし神のみすゑの

日の西子のみあれまづける

けふすれどその色でたさを

限りへられず

(九)

## 天長節

天長節

かしこしな よもに かがやく  
ひのりとは よろづの くにに  
たぐひなき かみのみくにと  
かむろぎの きづけたまひし  
かむたから みくさの たうら  
かけまくら あやに かしこく

(十)

うけまし し かみのみすゑの  
ひのみこの みあれましける  
けふあれば そのためでたさは  
かぎりしられ一 す

## 新嘗祭

小田清雄作歌

両股よ泥うきくせ

手脇よ水泡うめたり

とくつくるたきつゝく  
くさくのものとせつゆれ  
さをさあくあらへんまへと

とほつうくわづかふきくの  
とーぢひよいのらせたまひー  
神たちよおとーよ福の  
初穂をだたでまつります  
やまとつりを新嘗祭と  
まさすすりうれもたがたを  
ひとくさむめ

(三)

## 新嘗祭

新嘗祭

むかもかに ひぢ かきよせ  
たなひぢに みなあ かきたり  
とりつくる おきつみとしと  
くまぐさの ゆのときつゆの  
さはりなく あらしめたまへと  
とはつかみ わづかほ きみの

(三)

としごに いのらせたまひし  
かみたちに ことしのいみの  
はづはをば たてまつります  
みまつりを にひるへまつりと  
まさすなり これもたがため  
ひとときのため

(三)

## 皇后宮御降誕

皇后宮御降誕

The musical score consists of three staves of music in common time with a key signature of one sharp. The lyrics are written in Japanese hiragana below each staff.

Staff 1:

のツキモ よるむよ にツのシ りレヘシ  
くタウク ちタシヒ ゆコシカ ヘケはマ  
ギエカコ やワくハ つニまへ ほキヒテ  
うビラシ よキフヨ たざれハ るビギギ  
しワはカ ちフイミ しかあい うナホ  
はマンフ きヨバ はシミカ さサキテ  
ニヤよア あカオハ まミヤケ じグヒケ  
のチンヤ るノト ルクのセ ミミキ  
るウセゲ ゆリヒニ ヘツヒト タタヨカ  
もホーフ か一ゴク ホイナチ たタヨカ  
く方一ア サキわき にミキヤ よヨケヨ  
スのミキヤ もモーヴ ハロ ヨロ

Staff 2:

のツキモ よるむよ にツのシ りレヘシ  
くタウク ちタシヒ ゆコシカ ヘケはマ  
ギエカコ やワくハ つニまへ ほキヒテ  
うビラシ よキフヨ たざれハ るビギギ  
しワはカ ちフイミ しかあい うナホ  
はマンフ きヨバ はシミカ さサキテ  
ニヤよア あカオハ まミヤケ じグヒケ  
のチンヤ るノト ルクのセ ミミキ  
るウセゲ ゆリヒニ ヘツヒト タタヨカ  
もホーフ か一ゴク ホイナチ たタヨカ  
く方一ア サキわき にミキヤ よヨケヨ  
スのミキヤ もモーヴ ハロ ヨロ

Staff 3:

のツキモ よるむよ にツのシ りレヘシ  
くタウク ちタシヒ ゆコシカ ヘケはマ  
ギエカコ やワくハ つニまへ ほキヒテ  
うビラシ よキフヨ たざれハ るビギギ  
しワはカ ちフイミ しかあい うナホ  
はマンフ きヨバ はシミカ さサキテ  
ニヤよア あカオハ まミヤケ じグヒケ  
のチンヤ るノト ルクのセ ミミキ  
るウセゲ ゆリヒニ ヘツヒト タタヨカ  
もホーフ か一ゴク ホイナチ たタヨカ  
く方一ア サキわき にミキヤ よヨケヨ  
スのミキヤ もモーヴ ハロ ヨロ

(三)

## 皇后宮御降誕

くゐるのをのへう菊の  
せうゆる秋の千代ハ千代  
にふへるその一たゑり  
よみのたゞぐさうまほへ

大内山アミビキツツ  
桐のうびよりやまわら  
みいづくの風よこす  
四方のたゞぐさうびきけ

四千餘萬のはうつう哉  
あが子とおぶーいつくーも  
まきいの宮のうれすーの  
よみのよな日をいざいきへ

トダヤギヤドヤギヤ  
ミムロの母のうめのひき  
ハナとせうけとくまくう  
トダヤギヤドヤギヤ

(三)

## 開校紀念式

開校紀念式

はなさきみーのるひとくさに  
コートノハジメラワスレスハ  
うちかひみーづきそそぐなる  
マゴクロフーカキシワザニテ  
このまなびーぞのひーらきにーし  
カシコキヒートノヲーシヘニーモ  
そのよきなきいはけふになん  
カナヒテメデタキワザニコソ

(三)

## 開校紀念式

小田清雄作歌

花咲き実のる人くさり  
土うひあをそぐある  
あのまあびぞのいらきよ  
そのよき月日をとるよあ

あとのわードモ残忘れぬも  
まづらわうきーわざよ  
かーあき人のやーへよも  
うなひてめでたまわざふと

(三十九)

# 夜游人多憲

(三)

夜半三窓

辻 清次郎作歌  
庄野五郎作曲

小田清雄謹述

## 祝日大祭日の由來

一 冊 定價 三錢

本年文部省令第四號祝日大祭日儀式規程ノ御主旨ニ從ヒ演説スペキ由來ヲ叙述スルモノニシテ意義簡明文辭平易ナレハ小學師弟幼年勿論一般ノ人モ解シ易ク以テ國家ノ大儀ヲ明ニシテ臣民拜禮ノ標準ヲ示シタルナリ

北條芳三郎氏編

## 音樂初步

洋 緡 集

一 冊

實價二十八錢  
郵稅四錢

音樂ノ小學校教科目ニ入りテヨリ其初步ヲ助クル書籍市上ニ現ハル、ト既ニ十ヲ以テ數フベキニ至レリ然レニ卓然其中ニ在テ頭角ヲハ顯スモノハ實ニ北條氏ノ編纂ニ係ル該音樂初步ナリトス該書ハ北條氏ノ嚮キニ佛國一等音樂長セ、アシュール、ト氏ニ從ヒテ多年教授ヲ受ケラレタルノ識ヲ以テ專ラ初學者ノ爲メニ計ルノ目的ヲ以テ編纂セラレタルモノコシテ音樂教育ニ熱心ナル諸彦必ス一讀スベキ良書ナリ

明治廿四年十一月二十日印 刷  
廿五年二月十一日訂正再版印刷  
同 同 同 同  
廿五年二月十五日出 版

三重縣津市西堀端二十四番屋敷



所 有 權 版  
發 印 著 作 者  
行 刷 者 兼  
前 川 善 兵 衛  
及 舍

東京市神田區柳原橋十四號地

大阪市東區南久寶寺町四丁目十九番屋敷

